

No33

医療法人敬仁会

かがやき

函館おしま病院

訪問看護ステーションおしま

R5.12.19

当院の改築工事がほぼ完了しました。

先に完成していた外来に加えて、ホスピス病棟が20床から28床に増床となりました。

また、今回新たに訪問看護ステーションを開設。すでに稼働しています。

他の設備、ナースステーションや院長室、当直室、駐車場なども新しくなり、

新鮮な気分で仕事に取り組んでいます。

今後も引き続き皆様のお力になれるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

院長 小林篤寿



介護病棟が閉鎖され増改築工事が開始されたのは一年前の今頃でした。おかげ様で無事新棟は完成し、これからの函館おしま病院は訪問看護ステーションを併設した28床のホ



おくり水

新しい時代を迎えることとなります。

そのような中、はるか40年あまり昔のことがふと思い出されました。

皆さんは「おくり水」をご存じでしょうか？

日本にある他者が亡くなった時に口に水を含ませるといふ儀式の事です。これは仏教における葬送の儀式なのだということだそうです。お水を飲んで安らかに旅立ってほしいという見送る側の気持ちが込められています。

わたしが看護師になりたての頃は先輩看護師がこの作法を教えてくれたものでした。氷を浮かべた透き通ったお水とガーゼをトレイに載せ、ご家族一人ひとりにガーゼをお渡しし、口を拭いて頂きます。ご家族は「これまでありがとう。」「楽になってよかったね。」と声をかけておられました。

少し昔まで当たり前に行われていた「おくり水」ですが、今ではすっかり見かけなくなりました。価値観も多様化し今の時代にそぐわなくなってしまったのかもしれませんが。

ですが、少し残念な気がします。それは「おくり水」という儀式がグリーフワークそのものだからです。亡き人をねぎらい感謝の言葉や伝えきれなかった想いを伝えながら水でのどを潤して差し上げる。

昔の日本には、このような素晴らしい儀式が存在していました。「おくり水」を継承してきた日本人の心を大切に新しい時代へと飛翔してゆきたいものです。



看護部長 谷口葉子

赤い糸 ～ 間島敦子さんを偲んで

今年の夏、当院ホスピス創設時の総看護師長・間島敦子さんはホスピスで人生の幕を下ろされました。私たちは彼女をいつものように病院の正面玄関からお見送りをしました。思えば間島さんは在職中、いつも新しい方が入院されると自らこの玄関でお出迎えをし、真っ先に労いの声をかけていました。何度も行き来したであろうこの場所から彼女を送り出す時、さまざまな場面が胸に去来し、涙があふれました。

2001年、福岡から故郷函館に戻ってきたばかりの私はホスピス実現に向けて東奔西走していましたが、とある講演会に参加した際、初めて間島さんとお会いしました。間島さんはかつて函館市内の某病院で看護師長を勤め、道南で初めてのホスピス開設に向けて先頭に立って準備を進めるも病院の事情により正式な開設には至らなかった、という話は聞いていました。私がお会いした時は既に第一線を退かれていましたが、間島さんのホスピスへの思いは私と同じくらいの熱量があり、2年後に当院で一緒に念願のホスピス開設に向けてまい進することとなるのは必然だったと思います。

ホスピス開設までにはさまざまな難関がありました。それを乗り越えるためには看護部を束ねる人材が必須でした。私は突然間島さんに電話をかけ、力を貸して欲しいとお願いしましたが、間島さんの決断と行動は早かったです。ご家族の後押しもあり、1ヶ月後には総看護師長として現場復帰して下さいました。^a



間島さんが着任されてからは急速に看護部の業務が整理され、間もなく受審した病院機能評価も無事クリアしました。ホスピス勉強会でも講師を務めたり、新しいスタッフの教育に力を注いで下さいました。何事にも感情が乱れることなく、誰にでも温かく接する間島さんの安定感と包容力は看護スタッフにとって上司であると同時に母親のような存在であったと思います。まさに間島さんの人間力の成せる業でした。そして私たちの共通の夢であったホスピスを開設することが出来ました。^a



間島さんの凄いところは、新しいことにチャレンジするエネルギーでした。ホスピス開設当初、若いスタッフに交じりハープのレッスンを受けてイベントで演奏して下さいましたが、誰よりも熱心に取り組み、難しい曲を演奏していたことにも驚かされました。

2009年10月に退職されてからも、当院ボランティアとしての活動、イベントや遺族茶話会への参加など、多大な貢献をして下さいました。時には厳しさを、そして時には少女のような屈託のない笑顔を見せて下さった間島さんは事あるごとに「院長とは赤い糸で繋がっているんです」と冗談めいて話して下さいましたが、いつかまたその赤い糸をたどって天国でお会いしたいと思います。

間島さん

本当にありがとうございました。

名誉院長 福德雅章

訪問看護ステーションおしま



管理者：澤田美佐子

11月1日より私を含めた看護師3名と事務員1名で『訪問看護ステーションおしま』が開設しました。以前、『函館おしま病院』のホスピス病棟と介護病棟で勤務し、他病院や訪問看護ステーションを経て、時の流れの中で緩和ケアに深く関わりたいと思い10年後に再び戻ってくることになりました。

私自身、実父を某病院で看取り、一家族として終末期医療や看護に対し改めて深く考える機会となりました。父が入院中に何度も

『家に帰りたい・・・』

と言った言葉は忘れられず、家族の意向を聞き入れ酸素投与中で移動に大きなリスクがある中でも主治医や看護師の方々が病院の各部門へ調整して頂き外出を計画してくれたことは今でも感謝の気持ちでいっぱいです。残念ながら実現できませんでした。

父を在宅へ迎える準備が整えず帰宅は叶いませんでしたが、看護師として一人でも医療・介護含め多くの療養者様が自宅や施設へ帰り、支えるご家族を含めたサポートが多職種間連携で出来ればと思っています。

スタッフ4名で周囲の方々の助けをもらいながら手探りで準備し、なんとか開設までたどり着き現在数名の訪問看護を行っています。

まだまだ課題が多く、一つ一つ乗り越える努力をしながら『訪問看護ステーションおしま』の基本理念を胸に刻み

《癒し癒される心からの看護》を



行ってきたいと考えています。

療養者様やご家族の心へ寄り添い『楽しみ・喜び・安らぎ・安心』が提供できるようにスタッフ4名で力をあわせ邁進していきます。



カモミール花言葉

:あなたを癒します



「訪問看護ステーション おしま」の基本理念

《癒し癒される心からの看護の提供》

一人おひとりの生活によりそっておうちに居ながら自分らしく最期の時まで過ごせるようにお支えします。

基本方針

- ①利用者さんの意思、価値観、信念を尊重し終末期をその人らしく過ごせるように全人的に支えます。
- ②本人、ご家族により添い、信頼関係の構築に努めます。
- ③確かな知識と技術で十分な情報提供と質の高いサービスを提供できるように自己研鑽に努めます。
- ④多職種との連携を図り、協力して療養生活のなかでの困りごとに素早く対応します。



040-0021

北海道函館的場町19番6号

医療法人敬仁会

函館おしま病院

TEL 0138-56-2308

FAX 0138-56-2316

訪問看護ステーションおしま

TEL 0138-30-7287

FAX 0138-56-2317

web <https://www.oshima-hp.or.jp>

Instagram <https://www.instagram.com/oshima.hp/>



FUJI SALVAGE Co., Ltd.